



更なる技術の研鑽を

はしもと けいすけ
橋本 圭祐 さん(木之本町木之本)

撮影場所：丸三ハシモト株式会社(木之本町木之本)

「均一の音を出すためには繊細な技術が必要なんです」。橋本さんは、創業明治41年を誇る、三味線や琴などの絃を製造する会社「丸三ハシモト(株)」の三代目会長であり、絃作り職人です。

橋本さんが絃作りに初めて触れたのは物心がつく前。当時、作業場と自宅が一緒の建物で、普段の生活の中に父親が絃作りをする光景があったそうです。「小さい頃から家業を継ぐ意識があった。小学校4年生の頃に書いた将来の夢は『日本一の糸屋になる』でしたね」と笑いながら当時を振り返ります。

小さい頃から和楽器の製造に触れてきた橋本さんですが、意外にも学生の頃はジャズバンドを組んでトロンボーンを演奏していたそうです。「全く違うジ

ヤールの音楽、楽器を演奏することで耳が鍛えられる。音を捉える耳というのはこの仕事で一番大事なので和楽器や弦楽器ではなくあえて洋楽器、管楽器を演奏していました」とこだわりをみせます。

家業を本格的に継ぎ始めたのは、22歳の頃。「今までやってきたことをそのままやるだけではだめ。ステップアップしていかないといけない」と毎日、自己の技術の向上にはげみました。超一流の奏者も使用する丸三ハシモトの製品。時にはお客さんから「もう少しタッチをやわらかくしてほしい」といった鋭い注文が入ることもあったそうです。しかしそれらの意見も技術の蓄積につながってきたと橋本さんは言います。「すべて手作業の絃作り。意見をいただいて試行錯誤す

ることで技術が向上していきました」。

50年近く絃作りに携わってきた橋本さん。今年、国が定める選定保存技術「邦楽器系製作」の保持者に認定されることが決定しました。「意識していなかったのが、聞いた時にはびっくりしました。先代である父も認定を受けていたので、二代にわたり認定を受けられて大変光栄で誇りに思います」と目尻を下げます。

これからの目標は伝統工芸を後世に伝えていくことと、更なる技術の研鑽をすること。「息子に頼ることも多くなり、引退も考えていましたが、認定を受けてまた気合が入りました。生涯現役でがんばりたい」。これからも絃作りに対する真摯な思いを持ち、伝統工芸の伝道師として最前線で活躍します。

Smile Smile

このコーナーでは、市内在住のお子さんたちの写真を掲載します。笑顔と元気あふれるお子さんたちの写真を募集しています。掲載を希望する人は市民広報課(☎65-6504)まで申込みください。



やんちゃで甘えんぼの紗英子。すくすく元気に育ってね。パパママはずっと貴女の味方です。幸せありがとうございます。

中嶋
紗英子ちゃん(平成29年8月生まれ)
(西上坂町)

長谷
香蓮ちゃん(平成28年12月生まれ)右
亮雅ちゃん(平成28年12月生まれ)左
(神照町)



大きく育ってくれてありがとう♡2人の笑顔にいつも幸せをもらっています♡喧嘩もたくさんするけど、これからも仲良く育ってね!

まちの人口	平成30年8月1日現在	人口118,699人	男58,104人	女60,595人	世帯数45,581世帯
	平成30年7月中の異動	転入307人	転出242人	出生83人	死亡108人 婚姻49件

